

【1】 学校体育経営

1 体育・保健体育科主任の主な役割（例）

主任は、一教科としてだけでなく、常に学校体育全体を見渡す広い視野が求められる。管理職と協力し、学校教育活動全体を通じた体育・スポーツ的諸活動の指導の中心となり活動をするのが大切である。

体育主任・保健体育科主任の主な役割例

(1) 指導に関する事項

【計画に関すること】 ・教育基本法、教育関連法規、及び学習指導要領に基づく教科の年間指導計画の作成に関すること ・教育課程の時間割編成上の教科の意見具申に関すること	【学習指導に関すること】 ・児童生徒の体力等の調査に関すること ・副教材及びその他の参考書に関すること ・指導内容の統一、調整、及び進度に関すること ・到達目標や評価規準の設定、及び評価方法に関すること
【安全に関すること】 ・施設・用具等の使用計画に関すること ・事故防止に関する指導・研修に関すること	【研修に関すること】 ・研修の計画と実施に関すること ・講習会や各種研修会等への参加に関すること

(2) 管理に関する事項

・施設・用具の安全点検及び整備・充実に関すること ・予算の編成と執行に関すること ・公文書の受理・整理・保存に関すること
--

(3) 組織・行事に関する事項

・体育部会（体育委員会、教科会等）に関すること ・体育的行事の企画と実施に関すること

留意点

これらの任務のすべてを体育主任及び保健体育科主任が一人で処理せず、教員組織である体育部会（体育委員会、教科会等）を定期的で開催して、役割を分担したり、学校体育全般に関する指導について情報交換をしたり、協議したりすることが大切である。

＜体育主任・保健体育科主任活動自己点検チェック表＞

		項 目	十分満足	満足	改善が必要
指 導	1	体育・保健体育科の目標・指導方針を示している			
	2	体育・健康に関する指導の全体計画を作成している			
	3	体育・保健体育科の年間指導計画・評価規準を作成している			
	4	児童生徒の体力・健康等に関する調査・管理・情報提供を適切に行っている			
	5	体育・保健体育に関する指導法等についての研修に取り組んでいる			
管 理	6	施設・用具の安全点検を定期的実施している			
	7	事故防止について十分配慮している			
	8	体育・保健体育科経営に必要な予算の算出と要望を行っている			
	9	諸表簿の管理と引継ぎがされている			
体 育 的 組 織 的 行 事	10	体力向上推進組織等を適切に運営している			
	11	体育・保健体育科の指導内容との関連を図っている			
	12	企画・分担・実施について組織的に対応している			
	13	季節や実施時期など年間を見通した計画になっている			

* 改善が必要な項目については体育部会などの組織を活用し、改善を図って日々の体育活動の充実に努めること。

2 学校体育に関する研究の進め方

- ① 研究主題は狭く、限定して示す。
- ② 研究主題に対応した成果を示す。
- ③ 結論は誰が読んでも同じように受け取れる表現にする。
- ④ 実践例は結論を支えるもの、根拠となるべきものを示す。

(1) 研究テーマ（主題）の決定 —解決したいことは何か—

日々の教員生活の中で、様々な疑問に思っていることや課題に感じていることはあるだろうか。教育界の動向や学校、クラスにおける問題、授業の課題、同僚や児童生徒から投げかけられた質問、それらは研究の出発点となり得る興味深いテーマである。

まず問題の所在、研究に至った経緯をまとめていく。校内テーマなど大きなテーマがすでに設定されている場合はそのテーマとの関係を述べる。また、この研究により何が明らかになり、どのような効果が期待できるのかを具体的に示す。

まずは、何に取り組んだのか研究の意図が簡潔に伝わるようにタイトルを決定する。目指す姿（方向）、内容、方法を具体的に示すようにするため、サブタイトル（副題）をつけることも有効である。そのためにも広範なテーマではなく、より具体的な問題に焦点を当てて研究を進めることが重要である。

タイトルが研究の途中で変わることは、表現の問題であり、少なくない。しかし、研究対象や後述する目的が一貫しているように留意する。

(2) 研究の目的 —何を明らかにしたいのか—

(1)で述べた問題点を解決するために、この研究を通して何を明らかにしたいのかを明確にする。一つの研究に複数の目的が存在するのは好ましくない。「この研究の目的は、～することである」というように、明らかにしたいことを簡潔に述べる必要がある。

(3) 仮説の設定 —どのような結果を予想しているのか—

ここは、理科の実験であれば、予想をする場面であり、問題が解決された理想の状態を表現しておく。

「**A** に対し **B** をすれば **C** になるだろう」という仮説について考えてみる。

- ・ **A**：研究対象（授業研究であれば児童生徒）
- ・ **B**：問題解決の手立て（具体的な工夫）
- ・ **C**：問題が解決された状態

B の部分は、単に「工夫をすれば」と漠然とせず、**具体的な工夫**を記述することが重要である。その工夫の根拠となる先行研究などを参考に、なぜその工夫が有効だと考えられるのかを説明する。

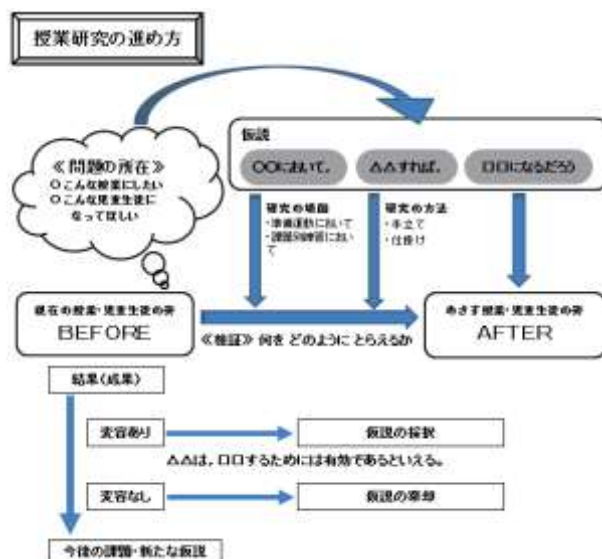
(4) 研究の手順 —どのような方法で進めるのか 研究の設計図—

仮説を検証するための具体的な手順を記述する。

- ① 研究対象：誰を対象にするか
- ② 検証期間：どのくらいの期間で研究を行うか
- ③ データ収集方法：どのようにデータを収集するか（観察、アンケート、テストなど）
- ④ データ分析方法：収集したデータをどのように分析するか（量的分析、質的分析など）
- ⑤ 仮説の採択・棄却基準：どのような結果が出れば仮説が採択され、どのような結果が出れば棄却されるのか

研究の対象は誰か、検証授業の期間はいつか、どのようにデータを収集するのか、その方法を定める。そして、BEFOREとAFTERでどのような変化が捉えられたら、仮説が妥当であったと判断するのかを決めておく。判断するための手段は、結果を客観的に示せるものでなくてはならない。例えば、(3)で「生徒が意欲的に取り組むようになるだろう」という仮説を立てた場合、BEFOREとAFTERを比較したときに、どのような状況になっていれば「意欲的になった」と判断できるのだろうか。変容の様子を客観的に示すことができる手段を設定していく。授業の前後で意識調査を行いその変化を数的に捉えたり、形成的授業評価等を用いて、授業の効果を数的に捉えその変化を判断したりする手段がある。教師が一人で児童生徒の様子を観察し、主観や経験から意欲的になったと判断し結論付けるのは、危険な手段である。

また、比較群を作って、効果を検証するのも一つの手段であるが、授業研究においては、明らかに効果があるとわかっている手段を、「仕掛ける」グループと「仕掛けない」グループを作って同じクラスや学校内で比較するのは教育上の観点から好ましくない。



(5) 結果と考察 — 研究の実際 データの収集 分析と結果の解釈 —

< 研究の結果 >

(4)で作成した設計図を基に、データを収集し仮説を検証する。自分で書いた手順のとおり展開していく。ここでは自分の考えはまだ述べない。検証授業でデータを収集した場合は、授業の内容とその分析結果を示す。質問紙調査を行った場合は、結果の分析データを示す。

○授業ノート等の記述や発言を示す場合は、記述・発言をどのように分析したか、質的、量的に示す。

○データはローデータ（生データ）だけで考察しない。

- ・クロス集計を行うなどしてデータを加工する。（エクセルでは、ピボットテーブルをさす。）
- ・平均点を比較する場合は、標準偏差（ちらばり）等も考慮して比較する。二群の差は平均点のみでは不十分な場合もある。その差は有意なものであるかを検定することが望ましい。

○質問紙調査は前後で同じ内容の質問紙を用いて比較する。

- ・授業後の調査で「○○になったと思いますか」といった意識の変化を問うと、変化を数的に捉えることができない。

< 考察 >

研究の結果を示して、成果として終わりにしている研究が多く見られるが、ここで自分の考えを述べ、導いた結論までを述べる。

示した結果をどのように解釈したか、(4)で示した方法に基づいて述べる。それぞれの仮説について、根拠を示して考察を示す。自分の仮説が妥当であったかどうか、そして、何がいえるのか、研究テーマに対応した結論でまとめていく。

考察の述べ方の例 (結果) から (結論) と考える。その理由は (根拠) である。

結論の述べ方の例 (結果) になったので (手立て) は (対象) に対し有効であると考えられる。

最後に、研究を進める上で、今後の課題がいろいろ出てくると考えられるので、まとめておく。

(6) 引用文献 参考文献

研究を進める上で、引用したり、参考にした文献やホームページは必ず示さなくてはならない。著者・編者名、出版年、本（論文）の名前、出版社、引用・参考ページを書く。

- 【参考文献】 ・ジェリー・トーマス他 宮下充正他監訳 体育・スポーツ科学研究法 大修館書店 1999年
 ・福島県教育資料研究会 先生方のニーズに応える「校内研究のすすめ方」 1991年